# 今井野遺跡

## 延岡市文化財調査報告書

## ―第 4 集―

1990

延 岡 市 教 育 委 員 会

# 序　　文

延岡市は、西は九州山地の山なみが広がり東は日向灘に面し、中央部を五ケ瀬川に形成された沖積平野が開けた自然美あふれる恵まれた環境に包まれています。

南方地区は、古代から人々が住み多くの遺跡が点在しており、今井野遺跡に隣接して国指定南方古墳群が所在しています。

延岡市教育委員会では、これら貴重な遺跡の保護、調査を重要な課題として取り組んでまいりました。

このたび刊行されることになりました本書もその成果の一部で、これらの記録が、広く文化財保護及び学術研究の一資料として利用いただければ幸いです。

なお、発掘調査や整理作業にあたってご協力いただいた皆様や関係機関に心より感謝申し上げます。

平成２年３月３１日

延岡市教育委員会

教育長　松坂　　数男

# 例　　言

1．本書は、市道高野－天下線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書である。

2．遺跡の所在地は、延岡市大字南方乙今井野１２３１－１外（延岡市天下町1231-1外）である。

3．調査期間は、平成元年８月７日から平成元年８月３０日まで実施した。

4．出土遺物については、日向市教育委員会　緒方博文氏、北方町教育委員会　小野信彦氏、門川町教育委員会　荒武麗子氏、北川町在住　澤皇臣氏の御教示を得た。

5．遺物の復元作業は、大塚徳子、山田眞由美、富高淳子が行った。

6．遺物の実測、製図及び写真撮影は、大塚、富高、柳田祝子、甲斐佳代、中尾彩子の協力を得て山田聡が行った。

7．本書の執筆、編集は山田が行った。

8．出土遺物は、延岡市教育委員会で保管している。

# 本　文　目　次

## 第１章　はじめに


１節　調査に至る経緯……1
２節　調査の組織……1


## 第２章　遺跡の立地と調査概要


１節　立地と環境……2
２節　基本層序について……4
３節　調査の概要……6


## 第３章　調査の成果


１節　Ａトレンチ……7
　１．縄文時代の遺構・遺物……7
２節　Ｃトレンチ……7～9
　１．縄文時代の遺構・遺物……7～17
　　石器……7～9
　　土器……11
　２．弥生時代の遺構・遺物……9～19
　　土器……9～19
３節　Ｄトレンチ……19
　１．縄文時代の遺構・遺物……19
４節　Ｆトレンチ……19～20
　１．縄文時代の遺構・遺物……19～20


## 第４章　まとめ


……20

# 挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡分布図(1／50000)
第２図　土層模式図
第３図　トレンチ土層図(1／20)
第４図　発掘調査区域図(1／500)
第５図　Ａトレンチ平面垂直図(1／40)
第６図　Ｃトレンチ石器、石鏃分布図
第７図　Ａ，Ｃトレンチ出土石鏃実測図(1／1)
第８図　Ｃトレンチ出土石器実測図(1／1)
第９図　凹石実測図
第10図　Ｃトレンチ出土土器実測図　その１(1／3)
第11図　Ｃトレンチ出土土器実測図　その２(1／3)
第12図　Ｃトレンチ出土土器実測図　その３(1／3)
第13図　Ｄトレンチ集石遺構実測図(1／20)
第14図　Ｆトレンチ平面垂直分布図
第15図　Ｆトレンチ出土土器実測図(1／3)

# 図　版　目　次

図版１　(1) 遺跡遠景（西から）　(2)遺跡近景（北西から）　(3)遺跡近景（南西から）
(4) 表土剝ぎ後風景（南西から）　(5)Ａトレンチ礫群出土状況
(6) Ａトレンチ遺物出土状況　(7)Ｃトレンチ遺物出土状況（その１）
(8) Ｃトレンチ遺物出土状況（その２）
図版２　(1) 集石の検出状況（その１）　(2)集石の検出状況（その２）
(3) Ｃトレンチ出土石器（その１）　(4)Ｃトレンチ出土石器（その２）
(5) Ｆトレンチ出土土器　(6)Ｃトレンチ出土土器
図版３　Ｃトレンチ出土土器

# 第１章　はじめに

## 第１節　調査に至る経緯

１９８９年５月６日、北方町教育委員会・小野信彦氏、延岡市舞野町在住・松田正利氏から市道工事現場で縄文土器片、石鏃等を採取したとの届出を受けた。翌日現場に行ったところ、市道高野～天下線の改良工事で標高約４０ｍの平坦な台地が削られており、その側面に縄文土器片等が多数確認された他、台地を削ったと思われる土の中から石鏃も確認することができた。現場付近は、国指定南方古墳群第１１、１２、１３号が所在し、また、古くから縄文土器片等が採集され、一般に周知の埋蔵文化財包蔵地として取り扱われていたが、連絡体制が不充分だったため事前に把握されていなかった。

早速土木課に問い合わせたところ、今後の工事予定区域にも埋蔵文化財の所在が予想されることから市土木課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた。しかし、ルート変更等による現状保存については非常に困難となったため、やむなく記録保存のための緊急発掘調査を平成元年８月７日～３０日までの間実施するに至った。

## 第２節　調査の組織

| | | |
|---|---|---|
| 総　　括 | 延岡市教育委員会 | |
| | 教　育　長 | 松坂数男 |
| | 社会教育課長 | 松島　崇 |
| | 課長補佐兼社会教育係長 | 大石　孟 |
| 庶務・会計 | 事務職員 | 宮野原八代子 |
| 発掘調査担当者 | 事　務　員 | 山田　聡 |
| 調査協力 | 宮崎県教育委員会 | |
| | 文化課主査 | 面高哲郎 |

北方町教育委員会　主　事　　小野信彦
日向市教育委員会　学芸員　　緒方博文
門川町教育委員会　主　事　　荒武麗子

発掘作業員　甲斐常美、工藤由美子、高橋和代、平塚ツサ子
三輪エイ子

整理作業員　大塚徳子、甲斐佳代、富高淳子、中尾彩子、柳田祝子
山田眞由美

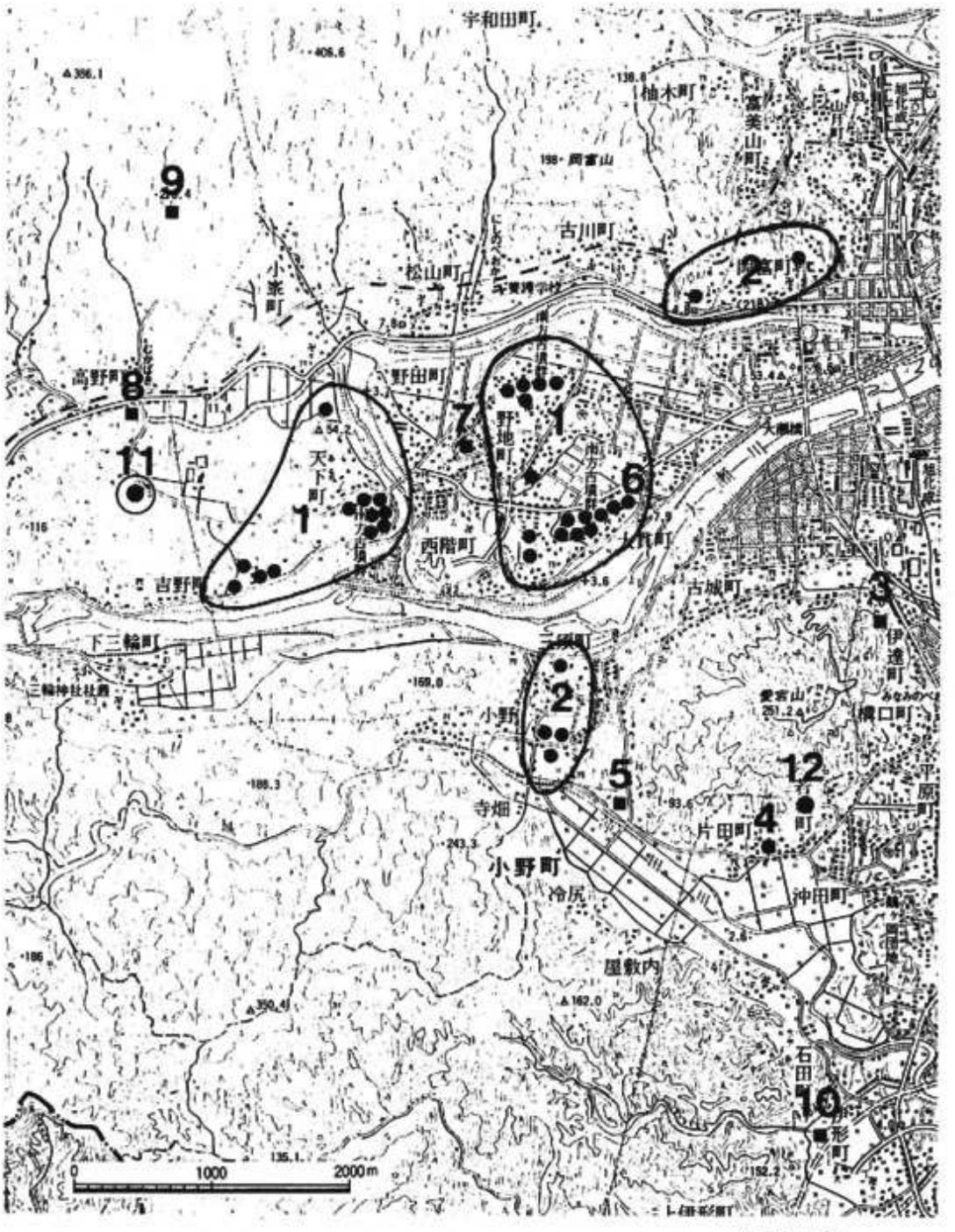
発掘調査にあたっては、連日炎天下の中参加していただいた地元の方々をはじめ、延岡市植物園の恒松盛担氏の他、吉永真也（別府大学）、牧山孝史（福岡大学）の協力を得た。
また、調査に深いご理解をいただいた地権者の方々に対して記して感謝します。

# 第２章　遺跡の立地と調査概要

## 第１節　立地と環境（第１図）

今井野遺跡は、延岡市大字南方乙字今井野1231-1外（延岡市天下町1231-1外）に所在する。遺跡は、行縢山(標高831m)から南東に派生する丘陵が五ケ瀬川付近で東に折れ、標高約110mの山から東に延びる平坦な台地への境目にあたる標高約 40mの丘陵上に立地し、北側は高野町方面に下る谷、南側は吉野町方面に下る谷があって、丁度分水嶺となっている。

当遺跡の周辺には、舞野町に旧石器時代を代表する赤木遺跡、高野町には高野貝塚（時期不明）が点在し、遺跡の東約 100mには国指定南方古墳郡　第11～13号墳が所在する。また、遺跡の周辺については、過去の記録が数多く残っている。遺跡の西側は、現在、延岡市植物園となっているが、以前南方中学校として使用され、当時教員をしていた故有馬七蔵氏は、生徒




(1/50000)

**第1図**
**周辺遺跡分布図**

1．南方古墳群　2．延岡市古墳　3．愛宕山洞穴
4．片田貝塚　5．沖田貝塚　6．大貫貝塚
7．野田町八田遺跡　8．高野貝塚　9．小峰窯
10．林遺跡　11．今井野遺跡　12．片田遺跡

を連れてよく付近の畑に表採に出かけていた。記録によると、弥生土器、打製石器、石鏃、須恵器等採集したとのことである。また、『延岡市史』には、天下町字今井野で石鏃、石錐、縄文土器を表採したとの記録が残っている。他には、『延岡附近神代遺蹟と傳説』の著者、河井田政吉によると「石器時代の遺跡－に就いては、字今井野に於いて石斧、石匙、石鏃、石玉、アイヌ式土器類に弥生式土器、同窯跡、石器製作所跡、是材料等あらゆる遺物豊富なり。」とあり、当遺跡の台地が、古代から人々の生活の営みが行われていたことを示すものである。

## 第２節　基本層序について（第２図）

当遺跡では、合計９層が確認された。しかし、調査区はかなり削平をうけているため、Ｃトレンチ西側の道路崖面にみられる土層を参考にした。基本層序は次のとおりである。

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　暗茶褐色土層　砂質を帯び類アカホヤを含む。

Ⅲ層　明橙褐色土層　鹿児島県の鬼界カルデラを噴出源（6,000～6,300年前）とし、通称アカホヤと呼ばれる火山灰層である。

Ⅳ層　黒褐色粘質土層　粘質を帯び比較的かたくしまる。遺物包含層である。

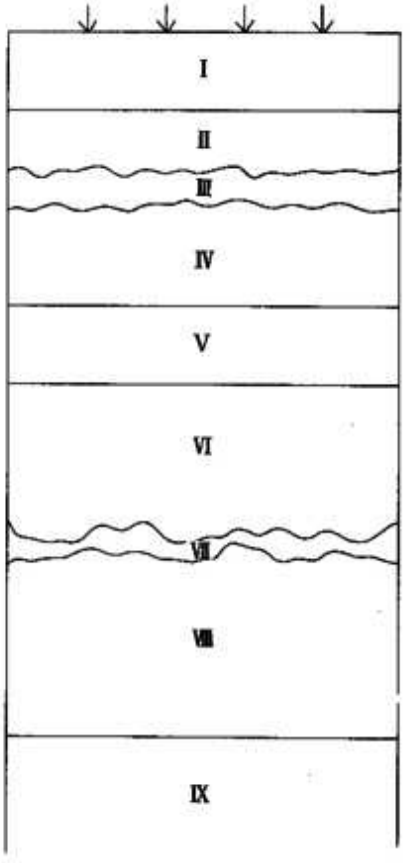
Ⅴ層　暗茶褐色粘土層　粘性を帯びかたくしまる。遺物包含層である。

Ⅵ層　暗褐色粘土層　Ⅴ層と同じく粘性を帯びパミスを含む。

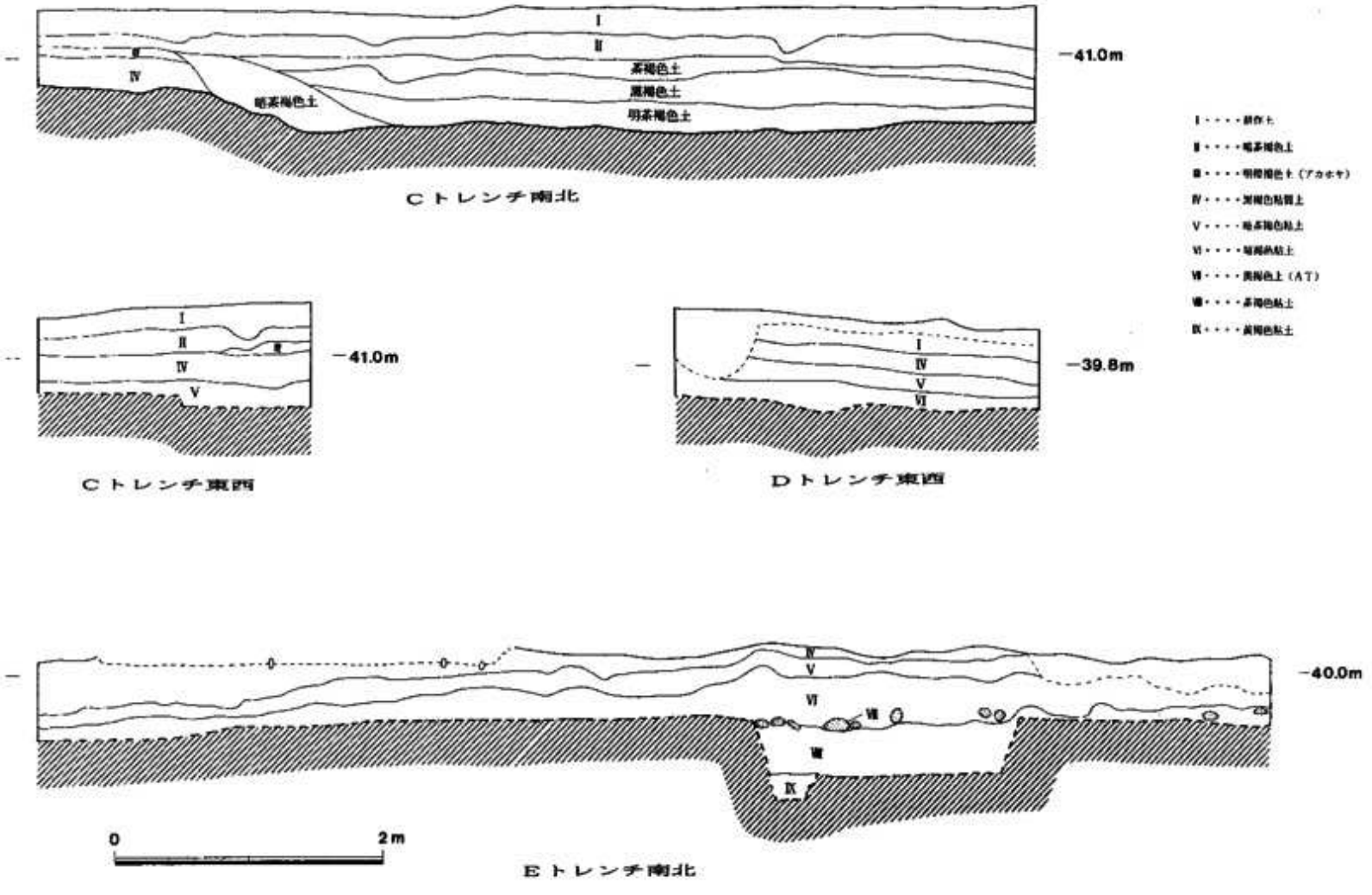
Ⅶ層　黄褐色土層　鹿児島県の姶良カルデラを噴出源（21,000～22,000年前）とし、通称ＡＴと呼ばれる火山灰層である。

Ⅷ層　茶褐色粘土層　粘性を帯び 5～10cmのブロック状にわれる。

Ⅸ層　黄褐色粘土層　粘性が大きく、かたくしまる。




第２図　土層模式図

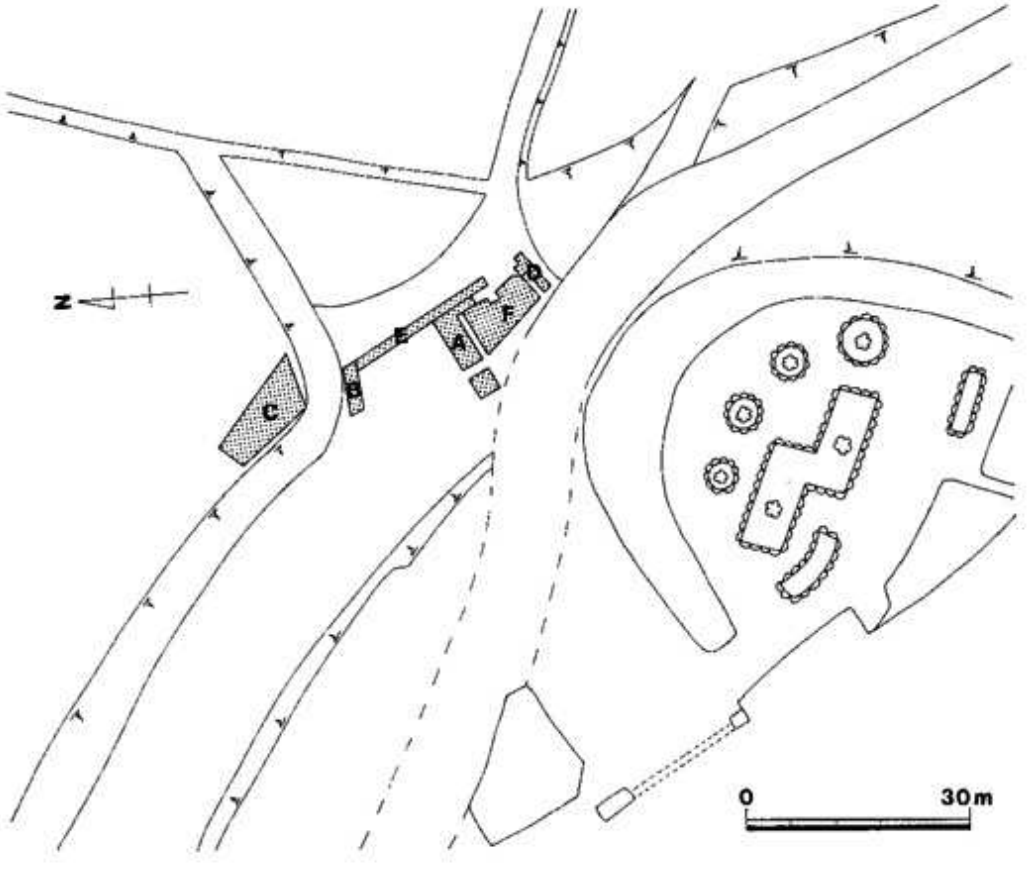



第3図　トレンチ土層図　(1/20)

## 第3節　調査の概要（第3・4図）

平成元年8月7日から調査を開始し、今後道路工事で削平を受ける面を中心に重機による表土削ぎ作業を行った。ところが、調査予定地域内には南方中学校があった頃の不燃物のゴミ溜があり、理科教材で使用する薬品のビンや窓ガラス等数多く埋まっていた。これは予想外のことで、調査区域の設定変更を余儀なくされた。そこで全面調査をすることはやめて、ゴミ溜を避けるように、トレンチ方式で行うことにし、A，B，D，Fは調査用トレンチとして、Eトレンチは南北土層を確認のためのものとした。また、途中から道路面とは別に畑への取り付け道路の予定地点に新たにCトレンチを設定して調査に行った。

遺物、遺構については、A，C，D，Fの各トレンチから確認され、遺物の総点数は、1,000点、遺構は集石と礫群を確認した。Aトレンチでは、Ⅳ層から直径 2～10cmの角礫、円礫がまじった礫群が確認された。一部には火を受け赤色に変色しているのが観察された。礫群の間からは、石鏃1点、剥片、砕片類6点出土した。Bトレンチでは、遺物、遺構ともに検出されな




第4図　発掘調査区域図　1/500

かった。Cトレンチからは、調査区で唯一アカホヤ層が残存しており、最も出土数があり、縄文～弥生の石器、土器類が出土した。Dトレンチからは、集石遺構を検出した。これは市内の地蔵ケ森遺跡につづいて２ケ所目である。Fトレンチからは押型文系土器が出土した。

# 第３章　調査の成果

## 第１節　Aトレンチ（第５図）

### １．縄文時代の遺構・遺物

ここからは、Ⅳ層から直径 2～10cmの角礫、円礫からなる礫群が確認された。一部には、火を受けて赤色になっているものを見受けられた。また、礫群の間からは、石鏃１点、剥片、砕片類６点が出土した。石鏃（第７図の12）、剥片、砕片類はいずれもチャート等である。いわゆる鍬形鏃と称されるもので基部を欠損する。石材はチャート製である。

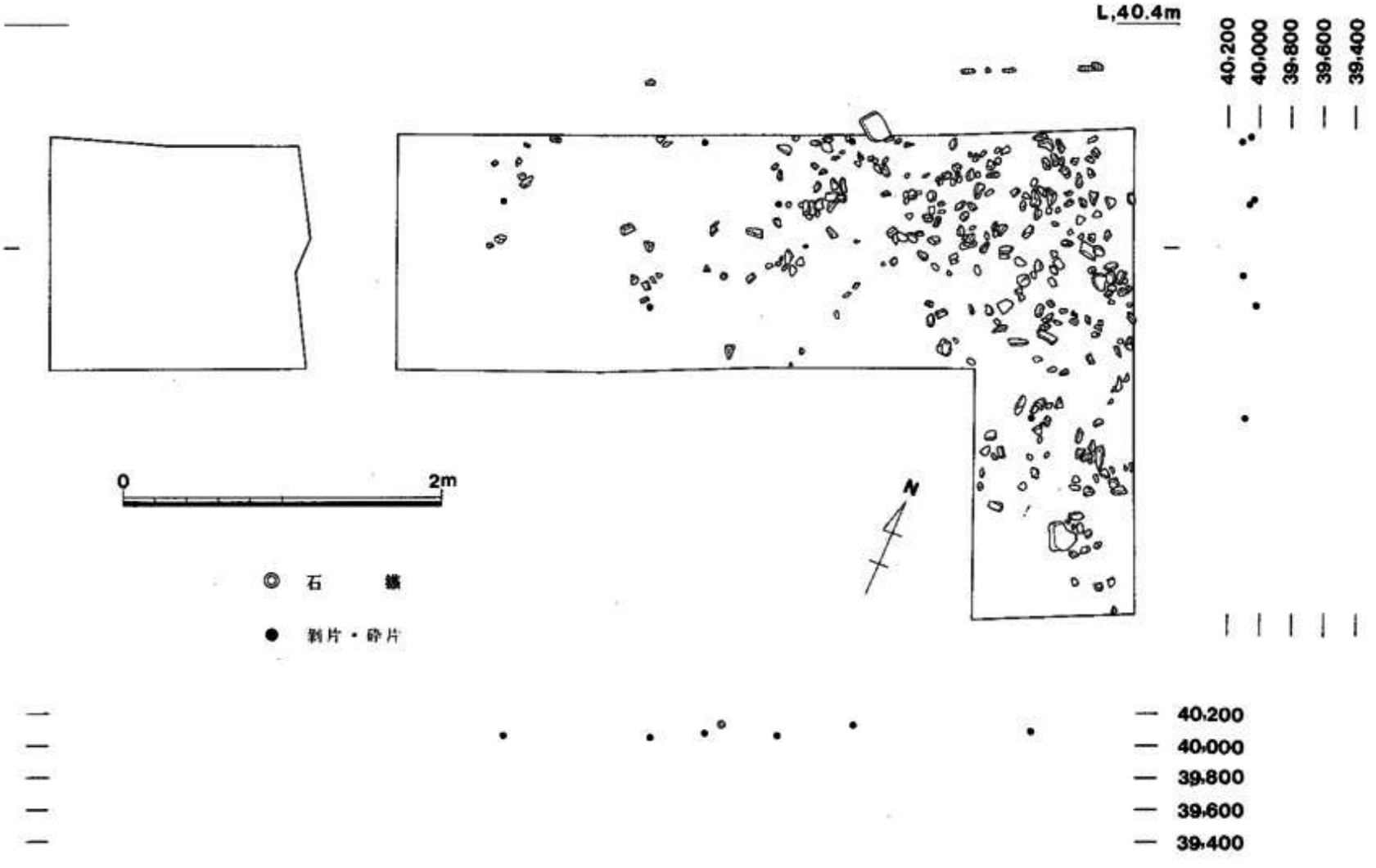
## 第２節　Cトレンチ（第６～12図）

### １．縄文時代の遺構・遺物

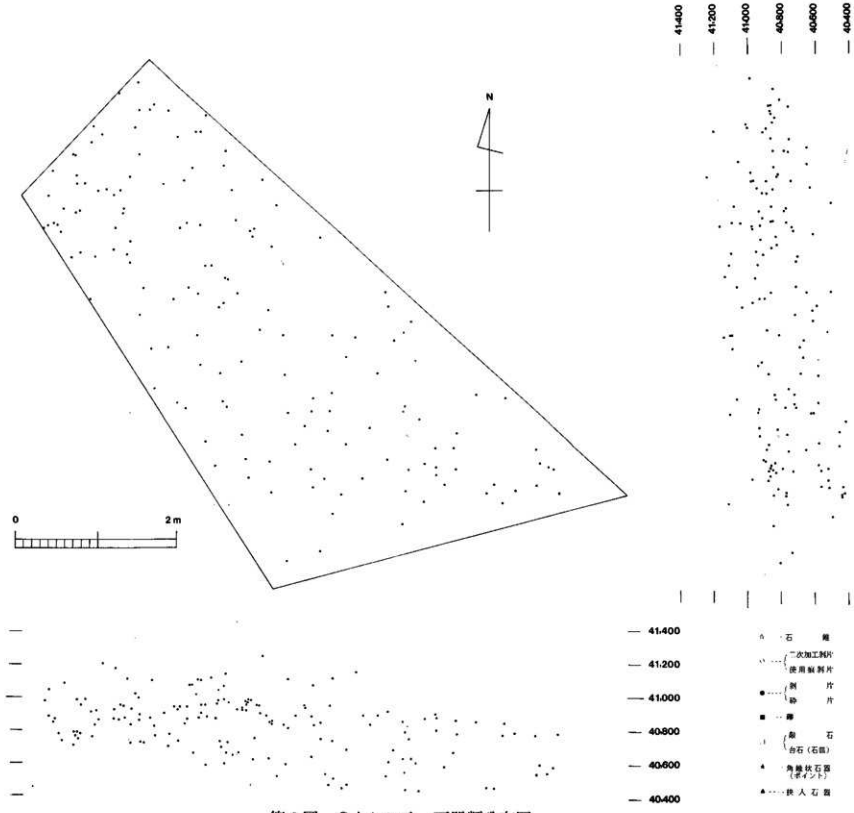
石器

ここからは、石器類が総計１８点出土し、その他多数の剥片、砕片類が得られた。平面分布図（第６図）にみられるように、全面にわたって出土している。トレンチ土層図（第３図）を見ると、地層の落ち込みが観察され、遺構らしきものが存在していた可能性があり、そのために地層がプライマリーな状態で残存せずこのような出土状況になったものと推察される。

ここで得られた石鏃は１５点である。形態的には鍬形鏃に分類され、基部の形状により凹基式、円基式等がみられる。１、３～１３がチャート、２は安山岩が使用されている。４、８～１３は凹基式の石鏃で、それ以外は円基式である。このうち、２は比較的浅い抉りを行っており、二等辺三角形を呈する。３、６は前者に比較して抉りがやや深くなったものである。１は凹基式の石鏃で基部と一側辺に加工を施した。６は前者に比べて、抉りがやや深くなったものである。１、４、５、８～１１、１３は凹基式の石鏃である。このうち、抉りは深くU字形を呈するもので、いわゆる鍬形鏃といわれるものである。１は剥片素材をそのまま生かして、基




第5図　Aトレンチ平面垂直図　(1/40)




第6図　Cトレンチ、石器類分布図

部に加工を施したもので、剥片鏃に相当する。５、７は、両側辺は直線ぎみで、調整は細かく施され、抉りが直線になる。８～１０は、両側辺がわずかに屈折する。調整は細かく鋸歯状の刃部が形成されている。１１は、両側辺から屈曲及び内折するポイントが直線的である。１２は、両側辺はなめらかに屈曲し、ずんぐりした形状を示す。１４～１６、１８は二次加工剥片、１７は剥片である。石材は、１７は流紋岩で、それ以外はチャートである。凹石（第９図）は、今回の調査で一点出土した。石材は安山岩である。両面ともに使用痕がみられ、さらに周辺部にも観察される。

土器

ここからは押型文系土器が出土した。文様は、無文、楕円文、山形文に分類される。１、２は、無文土器である。１は口縁部で、器厚 1.3～ 1.7cmを計りやや厚手のものである。口縁は直線的にのび、直立口縁の形状を示す。器面は指押圧痕が残る。２は胴部で１と同一個体になるものと思われる。３～７は楕円押型文土器である。いずれも外面に横走施文される。３、４は器厚 0.8cmを計り、横に無文帯があって、同一個体と思われる。５は円楕円文である。７は器厚 1.0cmを計り、内面はナデ調整される。８～２０は山形押型文土器である。いずれも９以外は、外面のみ横走施文される。９は器厚 0.6cmを計り内外面とも横走施文される。８～１１はやや小形の山形文が施文される。１２はやや深めの山形文を施文し、内面はナデを施す。１３～１４は、無文帯をもちやや大きめの山形文が施文され、内面はナデがみられる。１５、１６は鋭角な山形文が施文される。１７～１９はゆるやかな山形文が施文される。２０、２１はやや浅めの粗い山形文が施文される。２１は内面にナデ調整がみられる。

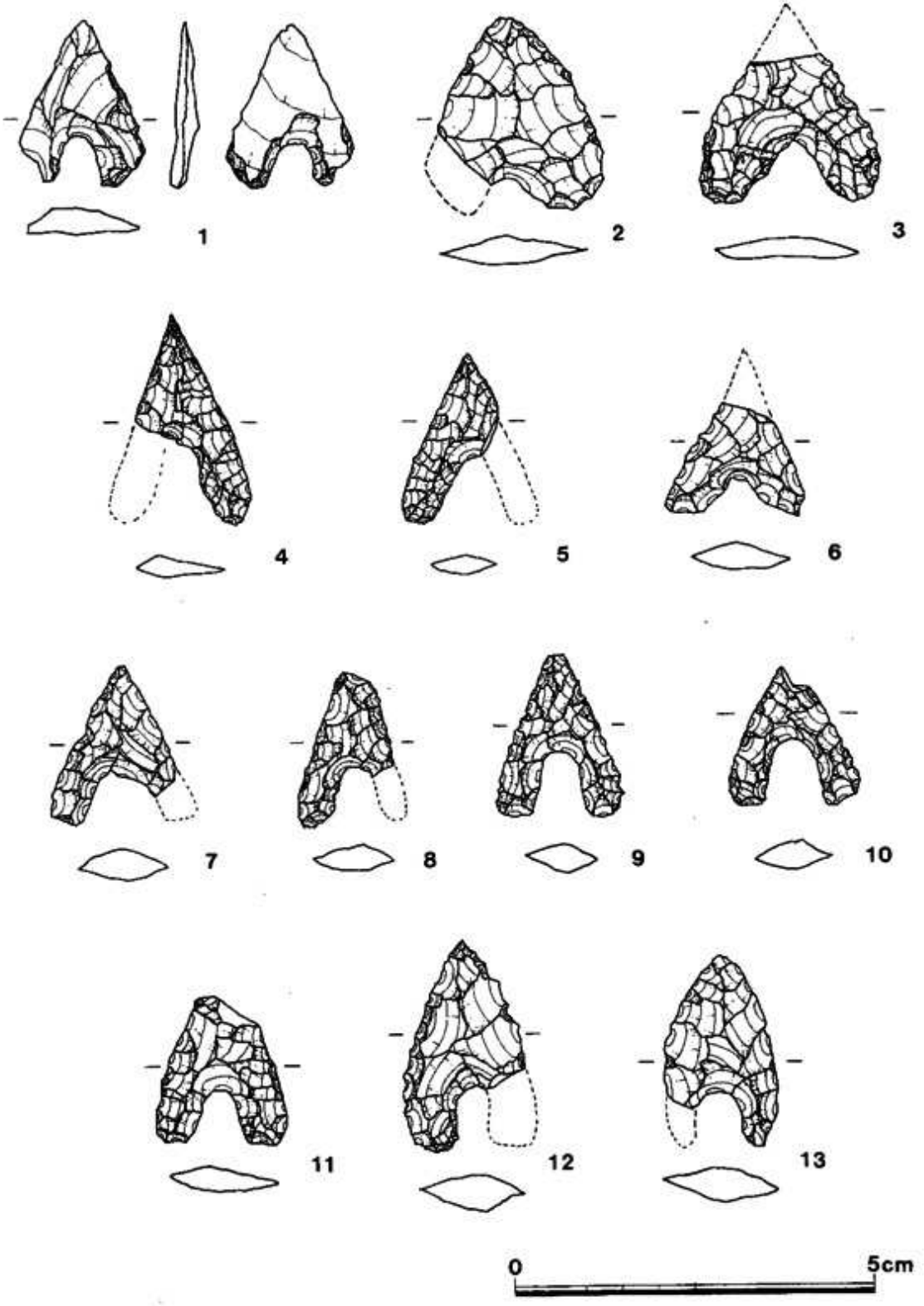
２．弥生時代の遺構・遺物

３４は台付鉢である。復元口径12.6cm、器高 8.6cm、底部径 2.3cmを計る。口縁部はわずかに内湾し、端部はやや丸みをもっている。外面は縦刷毛目調整後、口縁部に横刷毛目調整を施している。内面は、斜刷毛目調整後、底部は指押えナデ、それ以外は横ナデを行う。胎土には砂粒を混え、淡橙褐色を呈する。

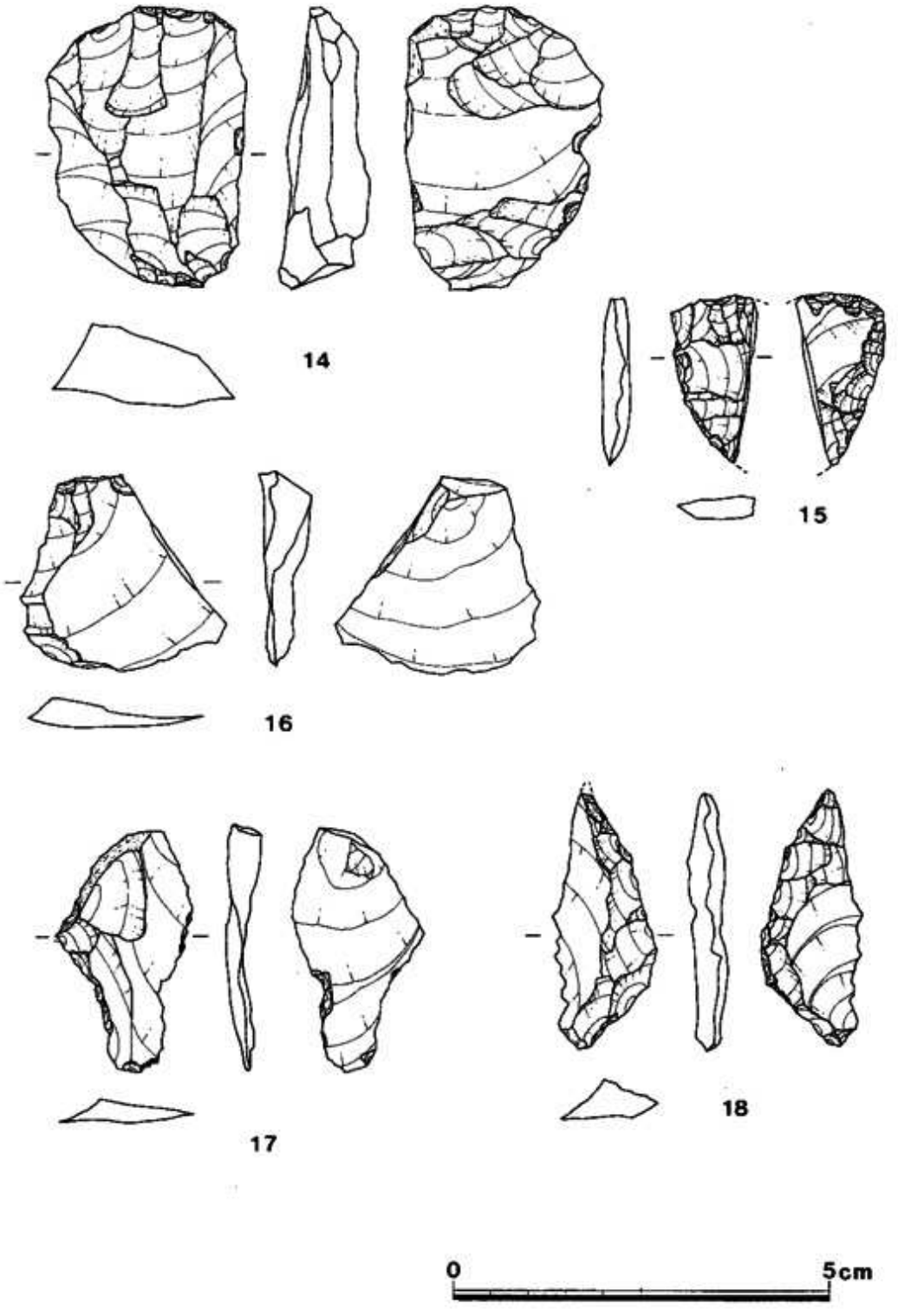
３５は甕形土器である。復元口径等は不明である。口縁部は外反する。外面は細い横刷毛目調整を行う。内面は口縁部に横刷毛目調整を行うが、頸部は剥落がはげしいため調整は不明である。胎土には砂粒を混え、淡橙褐色を呈する。

３６は鉢形土器である。復元口径は不明である。口径端部は直立ぎみである。外面は斜めにナデ調整を行う。体部は縦刷毛目調整を行う。胎土には砂粒を混え、淡橙褐色を呈する。

３７は甕形土器である。復元口径等は不明であるが、口縁部は外傾している。外面は斜刷毛目調整を行う。内面は、口縁部に横刷毛目調整、頸部に斜刷毛目調整を行う。砂粒を多く混え




第7図　A．Cトレンチ出土石鏃実測図　(1/1)




第8図　Cトレンチ出土石器実測図（1/1）

た胎土で、橙褐色を呈する。

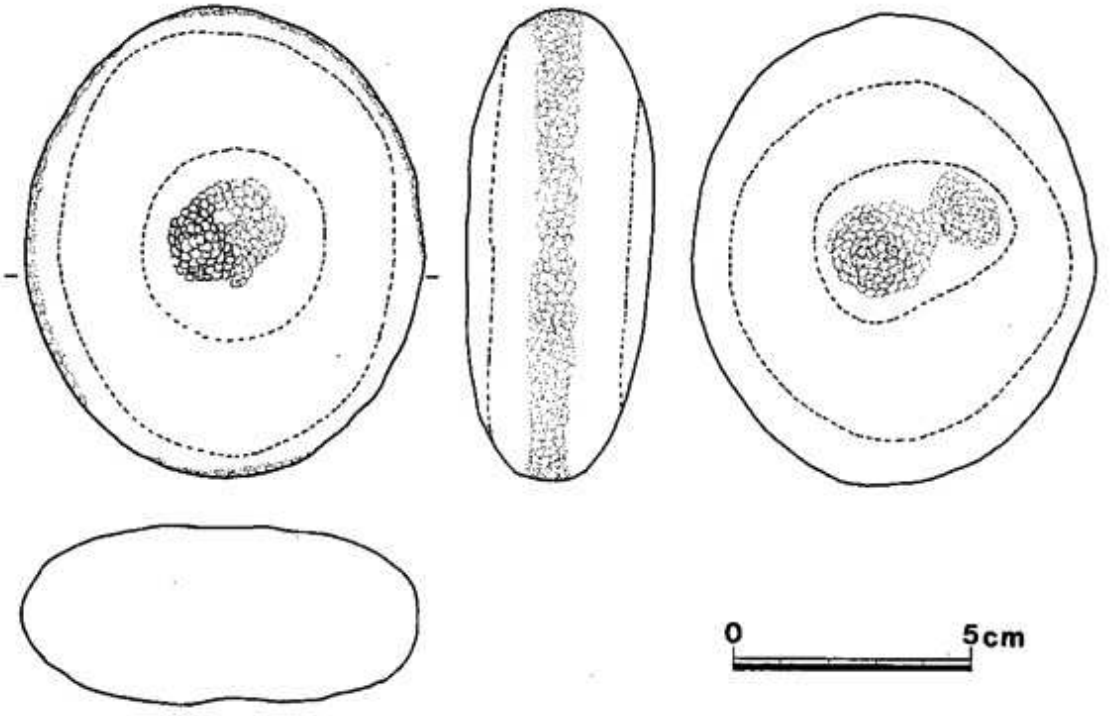
３８は鉢形土器である。復元口径18.4cmを計る。口縁部は外傾し端部は細くなる。外面は、口縁部に横刷毛目調整、体部は交互に斜刷毛目調整を行う。内面は口縁部に細い横刷毛目調整、体部にヘラミガキ調整を行う。砂粒混りの胎土で、淡橙褐色を呈する。

３９は甕形土器である。口縁部は外傾し、復元口径15.6cmを計る。外面は縦刷毛目調整を行う。内面は、口縁部に横刷毛目調整、胴部にナデ調整を行う。粗い砂粒を混んた胎土で、黄橙褐色を呈する。

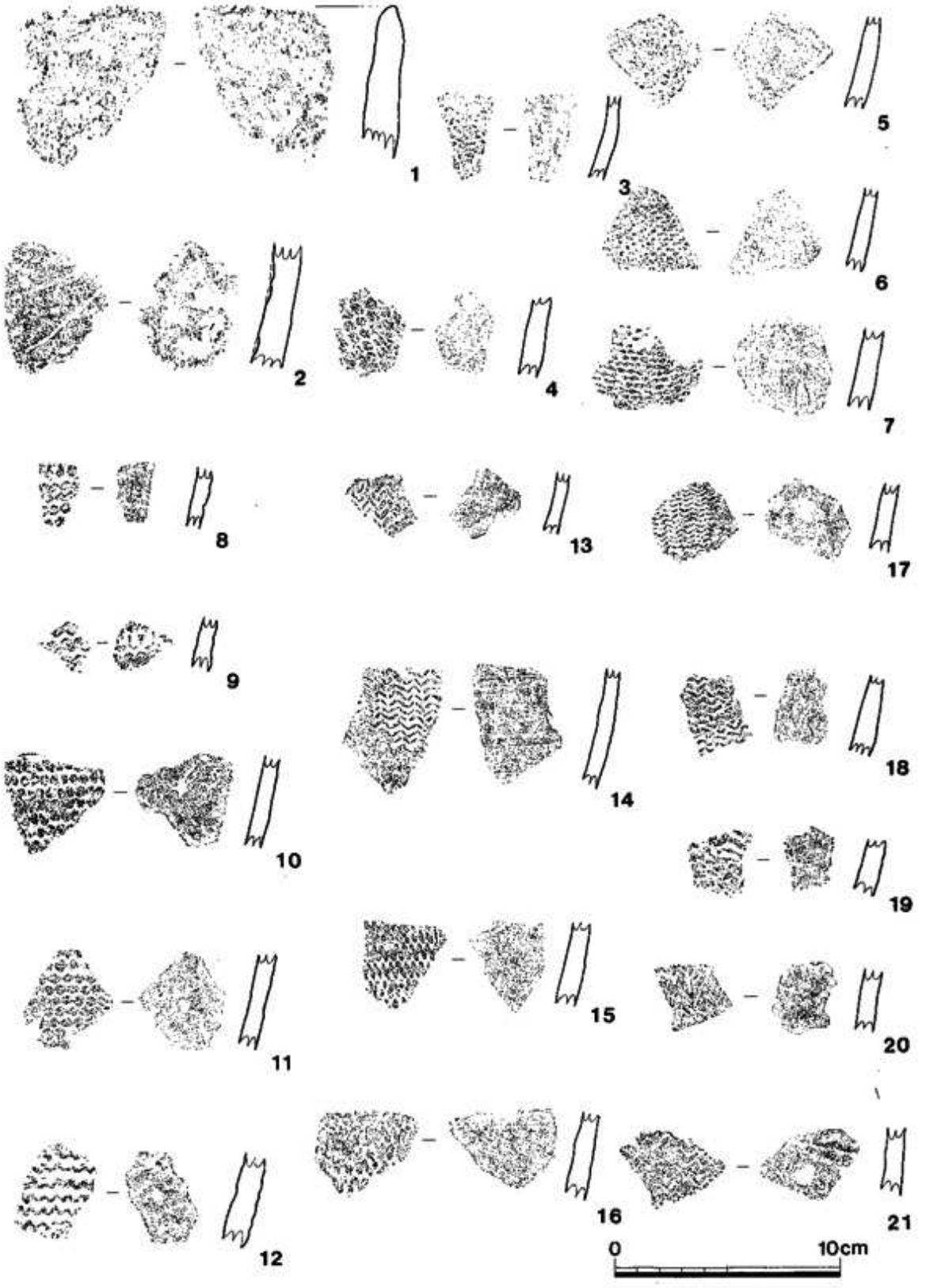
４０は甕形土器である。口縁部は外傾し、復元口径25.0cm、復元器高26.7cmを計る。底部は尖底ぎみの平底を有し、復元底径 2.0cmを計る。外面は、口縁部に斜刷毛目調整、頸部から胴部にかけて粗い縦刷毛目調整を行っているが、底部は剝落がはげしく不明である。内面は、口縁部に横刷毛目調整、胴部に斜刷毛目調整、底部にヘラナデ調整を行う。砂粒を多く混んた胎土で、黄橙褐色を呈する。

４１は甕形土器である。復元口径19.0cmを計る。口縁部は外反する。外面は、口縁部に縦刷毛目調整を行う。内面は、口縁部に横刷毛目調整、それ以外は斜刷毛目調整を行う。胎土には粗い砂粒を混え、淡黄褐色を呈する。

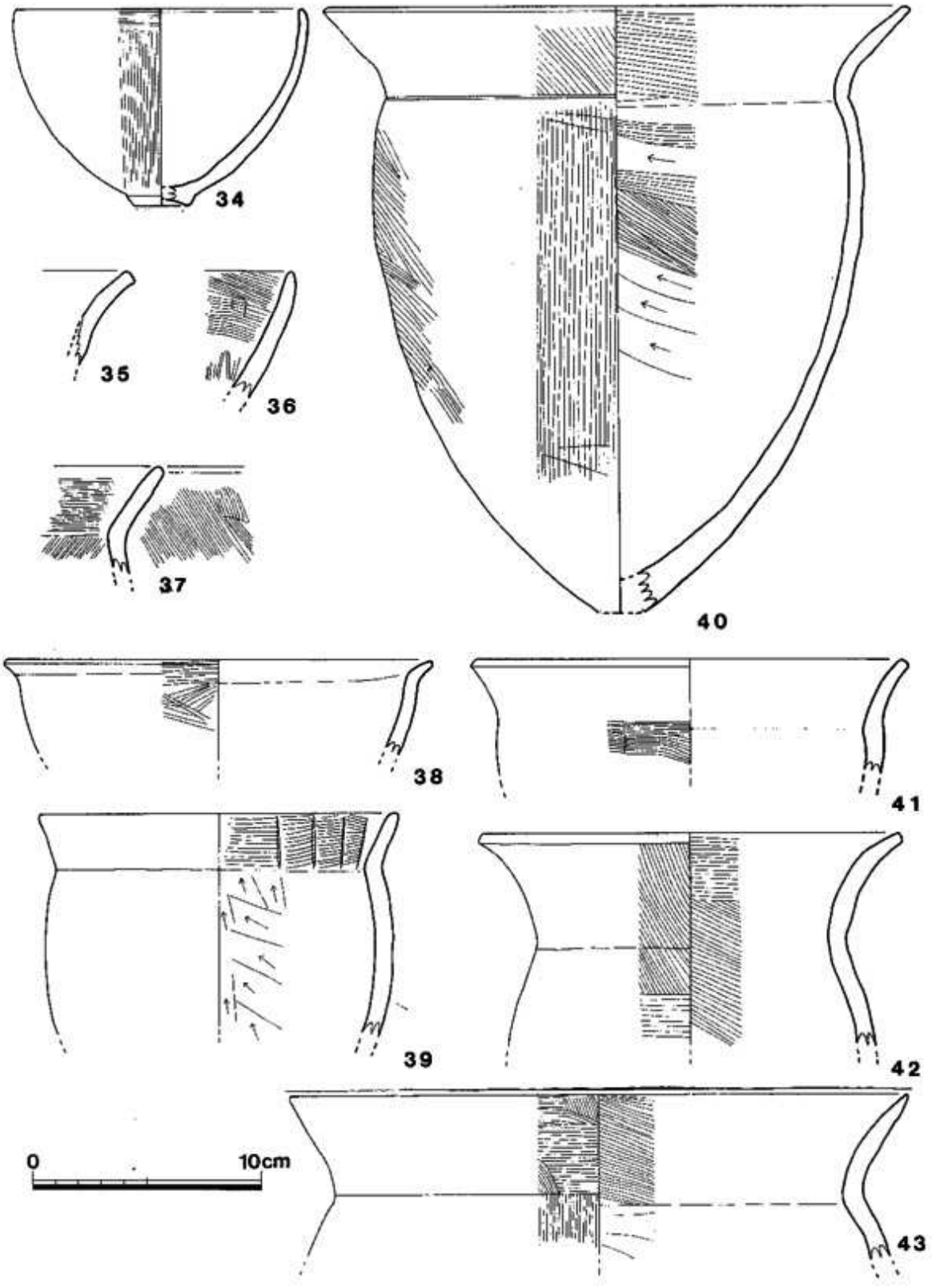
４２は甕形土器である。口縁は外反し復元口径18.0cmを計る。外面は、口縁部に粗い横刷毛



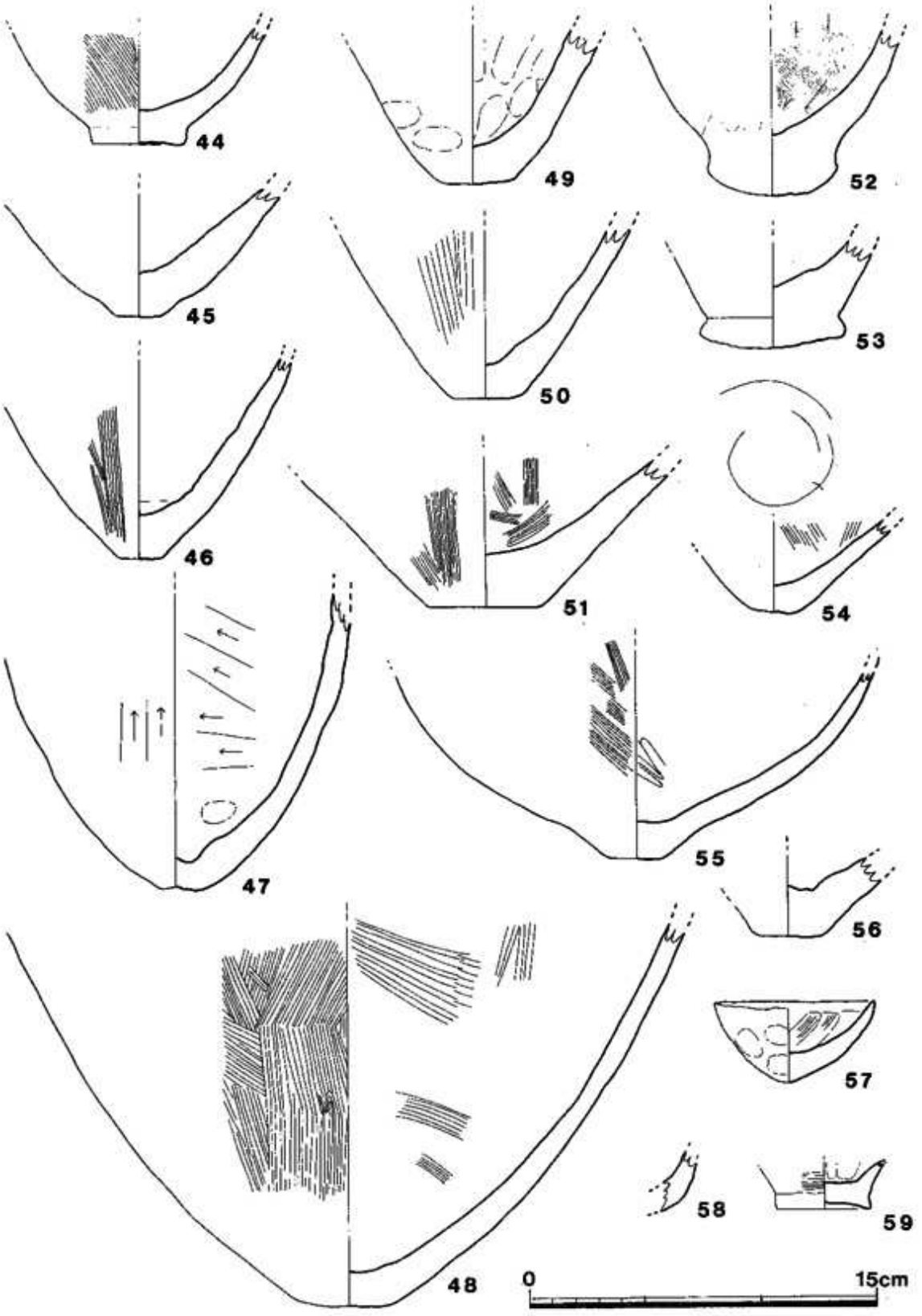

第9図 凹 石 実 測 図




第10図　Cトレンチ出土土器実測図その1　(1/3)




第11図　Cトレンチ出土土器実測図その2　(1/3)




第12図　Cトレンチ出土土器実測図その3　(1/3)

目調整、頸部に粗い斜刷毛目調整、胴部に横刷毛目調整を行う。内面は、口縁部に粗い横刷毛目調整、頸部から胴部にかけて粗い斜刷毛目調整を行う。砂粒を混えた胎土で、淡橙褐色を呈する。

４３は甕形土器である。口縁部は外反する。復元口径26.8cmを計る。外面は、口縁部を横刷毛目調整後、胴部に縦刷毛目調整を行う。内面は、口縁部に刷毛目調整、頸部にヘラ削りがみられる。粗い砂粒を混えた胎土で、淡橙褐色と呈する。

４４は台付鉢形土器である。底部にはわずかな窪みが見られ、底径 4.0cmを計る。外面は、体部に斜刷毛目調整、底部には指ナデ調整が見られる。内面は、剝落がはげしく調整は不明である。胎土には砂粒をを混え、淡橙褐色を呈する。

４５は甕形土器である。底部のみのため復元口径等は不明であるが、丸底ぎみの平底をもちわずかに窪みがある。外面は、ヘラナデ調整を行う。内面は、剝落がはげしく調整は確認できないが、底部内面に指押圧痕が見られる。砂粒を混えた胎土で、灰黄褐色を呈する。

４６は甕形土器である。尖底ぎみの平底をもち、底径 1.9cmを計る。外面は、粗い縦刷毛目調整を行う。内面は、剝落がはげしく調整は不明であるが、底部に指押圧痕が残る。粗い砂粒を混えた胎土で、暗橙褐色を呈する。

４７は壺形土器である。長胴形の胴部をもち丸底ぎみの底を有し、わずかに窪みがある。外面は、ヘラナデ調整を行う。内面は、指ナデ調整を行い、底部には指押圧痕が残る。胎土には粗い砂粒を混え、黄橙褐色を呈する。

４８は甕形土器である。丸底ぎみの底部をもつ。外面は、粗い縦刷毛目調整を行う。内面は粗い斜刷毛目調整、底部には指押圧痕が残る。砂粒を混えた胎土で、淡黄褐色を呈する。

４９は甕形土器である。平底をもち底径 3.5cmを計る。調整については内外面とも剝落がはげしく不明であるが、内面底部にわずかに指押圧痕がみられる。粗い砂粒混りの胎土で、橙褐色を呈する。

５０は甕形土器である。尖底ぎみの平底をもち、底径 3.0cmを計る。外面は、粗い縦刷毛目調整を行う。内面は、剝落がはげしく調整は不明である。胎土には多量の砂粒を混え、暗黄褐色を呈する。

５１は甕形土器である。底部のみのため復元口径等は不明であるが、平底で底径 4.8cmを計る。外面は、縦刷毛目調整を行う。内面は、交互にヘラナデ調整を行い、底部には爪押圧痕がみられる。粗い砂粒を混えた胎土で、暗橙褐色を呈する。

５２は甕形土器である。不安定な凸レンズ状の底部をもち、底径 5.7cmを計る。外面は、縦に指ナデ調整を行う。内面は、底部に斜刷毛目調整後、胴部に横刷毛目調整を行う。胎土には多量の砂粒を混え、淡橙褐色を呈する。

５３は甕形土器である。平底で底径 6.2cmを計る。外面は、縦刷毛目調整を行う。内面は指

ナデ調整を行う。砂粒を混えた胎土で、淡赤褐色を呈する。

５４は鉢型土器である。底部のみであるが器壁は薄く仕上げられており、平底を呈し底径2.0㎝を計る。外面はヘラミガキを行う。内面は、ヘラナデ調整を行い、ヘラの圧痕が残る。砂粒混りの胎土で、黄橙褐色を呈する。

５５は壺形土器である。不安定な平底をもち、底径 2.4㎝を計る。外面は、胴部に斜刷毛目調整、底部はヘラ調整を行う。内面はヘラミガキを施している。胎土には砂粒を混え、暗黄橙褐色を呈する。

５６は甕形土器である。底部のみのため復元口径等は不明であるが、平底で底径2.6 ㎝を計る。外面は粗い縦刷毛目調整を行い、内面はヘラナデ調整を行う。胎土には粗い砂粒を混え、橙褐色を呈する。

５７は小形鉢形土器である。ミニチュア土器に相当し、口径 6.9㎝、器高 3.5㎝を計る。底部は丸底ぎみの尖底をもつ。外面は、細い刷毛目調整後、指押え調整を行う。内面は、細い刷毛目調整後、指ナデ調整を行う。粗い砂粒を混えた胎土で、橙褐色を呈する。

５８は鉢形土器である。底部の一部しか残存していないが、丸底タイプと思われる。外面は指押えナデ調整を行う。内面は指ナデ調整を行う。砂粒混りの胎土で、淡黄橙褐色を呈する。

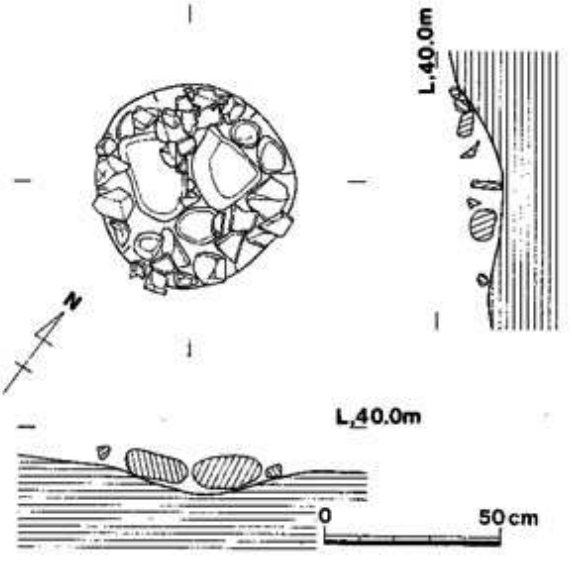
５９は台付鉢形土器である。底径 4.0㎝を計り、窪みを有する。器壁は非常に薄く仕上げられており、内面底部にヘラ圧痕が残る。外面は指ナデ調整を行う。内面はヘラ削り調整が見られる。胎土には砂粒を混え、橙褐色を呈する。

## 第３節　Ｄトレンチ

（第13図）

### １．縄文時代の遺構・遺物

ここでは、Ⅵ層上面から集石遺構が１基確認された。長短軸ともに約55㎝の規模を有し、約 8㎝の掘り込みが確認された。集石は、中心部に台石に使用されたと思われる直径25㎝程度の石を設置後、直径 5～15㎝の角礫、円礫を使用し四角形状に組んである。礫は総数37個で、いずれも加熱による変色がみられ、礫同志の接合がいくつか確認された。




第13図　Ｄトレンチ集石遺構実測図(1/20)

## 第４節　Ｆトレンチ（第14・15図）

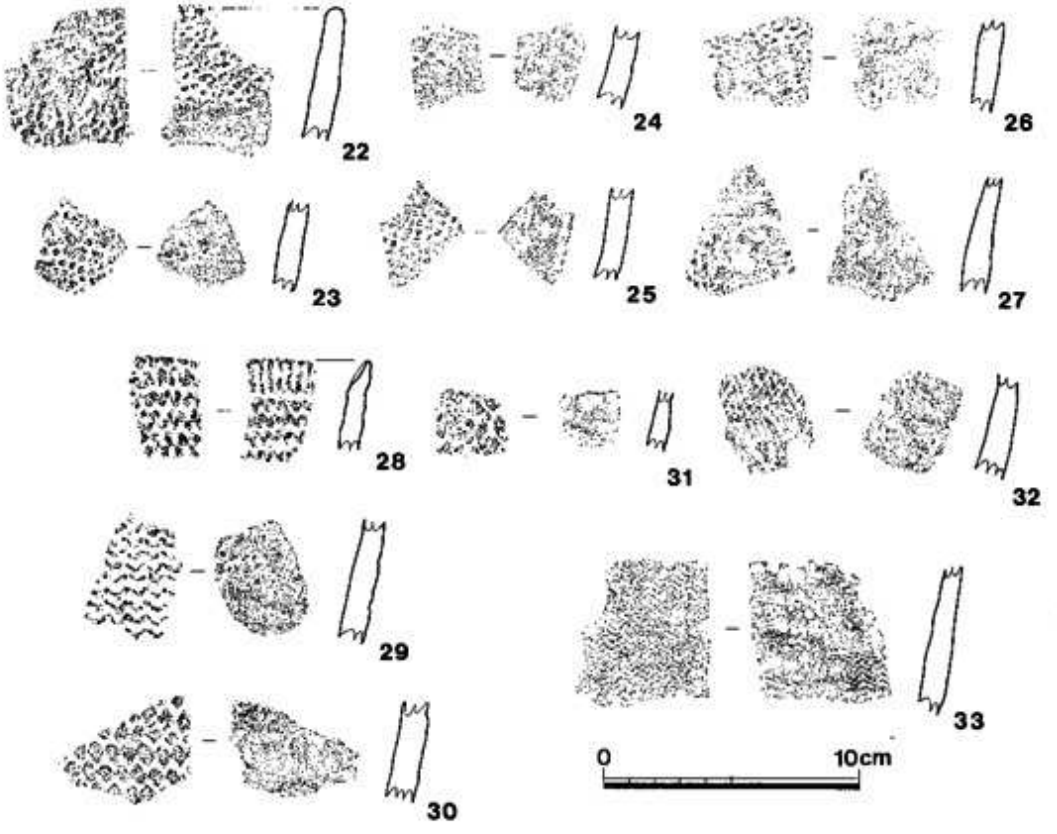
１．縄文時代の遺構・遺物ここからは、遺構はなくⅣ層から、押型文系土器が出土した。文様は楕円文、山形文に分類される。２２～２７は楕円文土器である。２２は口縁部で器厚 0.8cmを計る。口縁はゆるやかに内湾する。外面は剥落がはげしく文様は明確でないが、わずかに楕円文が観察される。内面は無文帯があり、口縁部に横走楕円文を施文される。２３～２６は胴部で外面に横走施文され、２４～２６は外面に無文帯を残す。２７は胴部で内外面とも横走施文され、内面に無文帯を残す。外面は一部ナデ消される。２８～３３は山形文土器である。２８は口縁部で、内外面とも横走施文され、内面口縁部には幅 1.3cmの原体条痕が施される。２９は胴部で外面に深い山形文が横走施文される。３０は外面に沈線山形文が横走施文される。３１は外面に横走施文される。３２は外面に浅めの粗い横走施文される。３３は内外面に無文帯をもつ。浅めに横走施文され、両面ともナデ消がみられる。

第14図　Ｆトレンチ平面垂直分布図

# 第4章　まとめ

今回の調査面積はわずかではあったが、文献で紹介されていたことを裏付ける形で、貴重な成果を得られた。

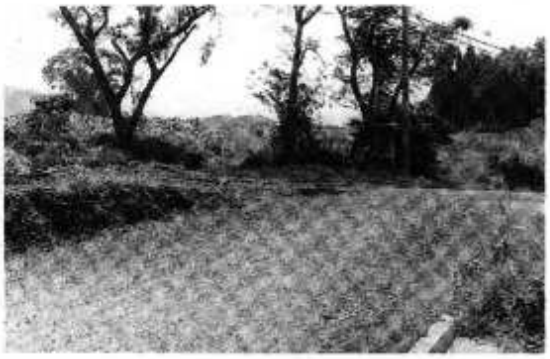
時期については、大きく二つに分けられる。まず、押型文系土器、集石遺構については、層位、形態の面から縄文早期の早水台～田村併行期に位置づけられよう。次にCトレンチから出土した土器について、今回は弥生後期後半～終末期に位置づけることにする。ただ、現在県北において、この時期の編年作業は進んでおらず、地理的に遠い北の大野川流域、南の宮崎学園都市遺跡群の編年を参考にしなければならない状況にあるので、若干の変更の可能性を含む。以上のようなことから、これらの遺物は、編年作業を進める上で貴重な資料を提供したということができ、今後の研究成果が期待されよう。




第15図　Fトレンチ土器実測図　(1/3)

# 图　版

(1) 遺跡遠景（西から）



(2) 遺跡遠景（北西から）

(3) 遺跡近景（南西から）

(4) 表土剝ぎ後風景（南西から）

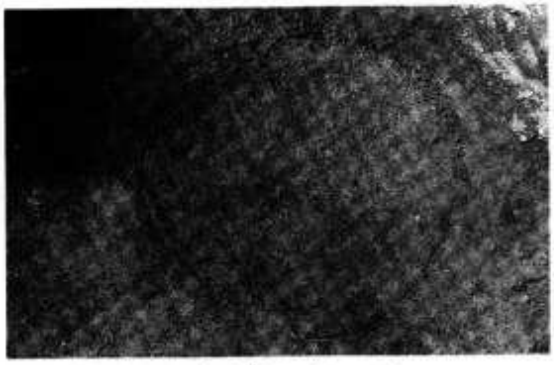
(5) Aトレンチ礫群出土状況

(6) Aトレンチ遺物出土状況

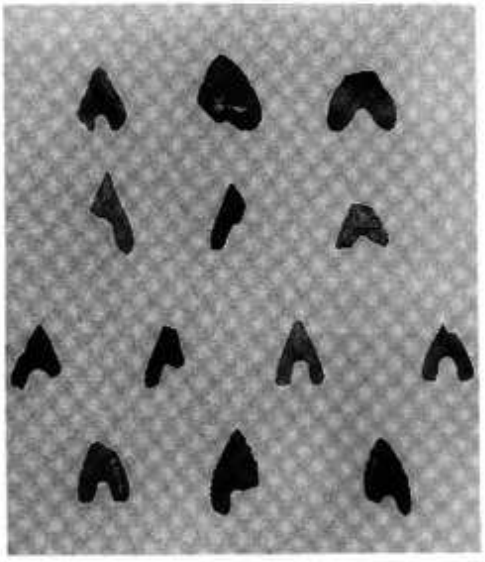
(7) Cトレンチ遺物出土状況（その1）

(8) Cトレンチ遺物出土状況（その2）

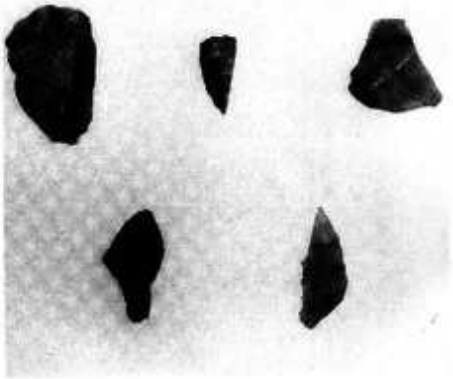
(1) 集石の検出状況（その1）



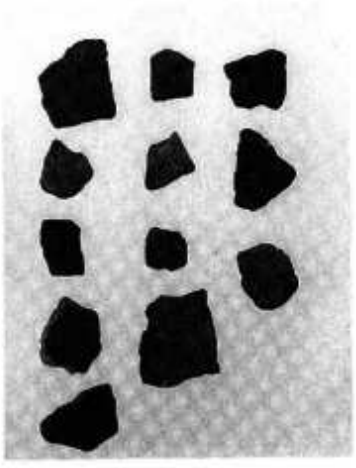
(2) 集石の検出状況（その2）



(3) Cトレンチ出土石器（その1）



(4) Cトレンチ出土石器（その2）



(5) Fトレンチ出土土器

(6)Cトレンチ出土土器

12－34

12－37

12－38

12－39

13－48

13－49

13－50

12－40

12－41

12－42

13－51

13－52

13－53

13－54

Cトレンチ出土土器

12－43

13－44

13－47

13－55

13－56

13－59

13－57

# 今井野遺跡

延岡市文化財調査報告書　第４集

１９９０年３月３１日

発行　延岡市教育委員会
延岡市東本小路２－１

印刷　㈱ながと印刷
延岡市出北４丁目２４７９